

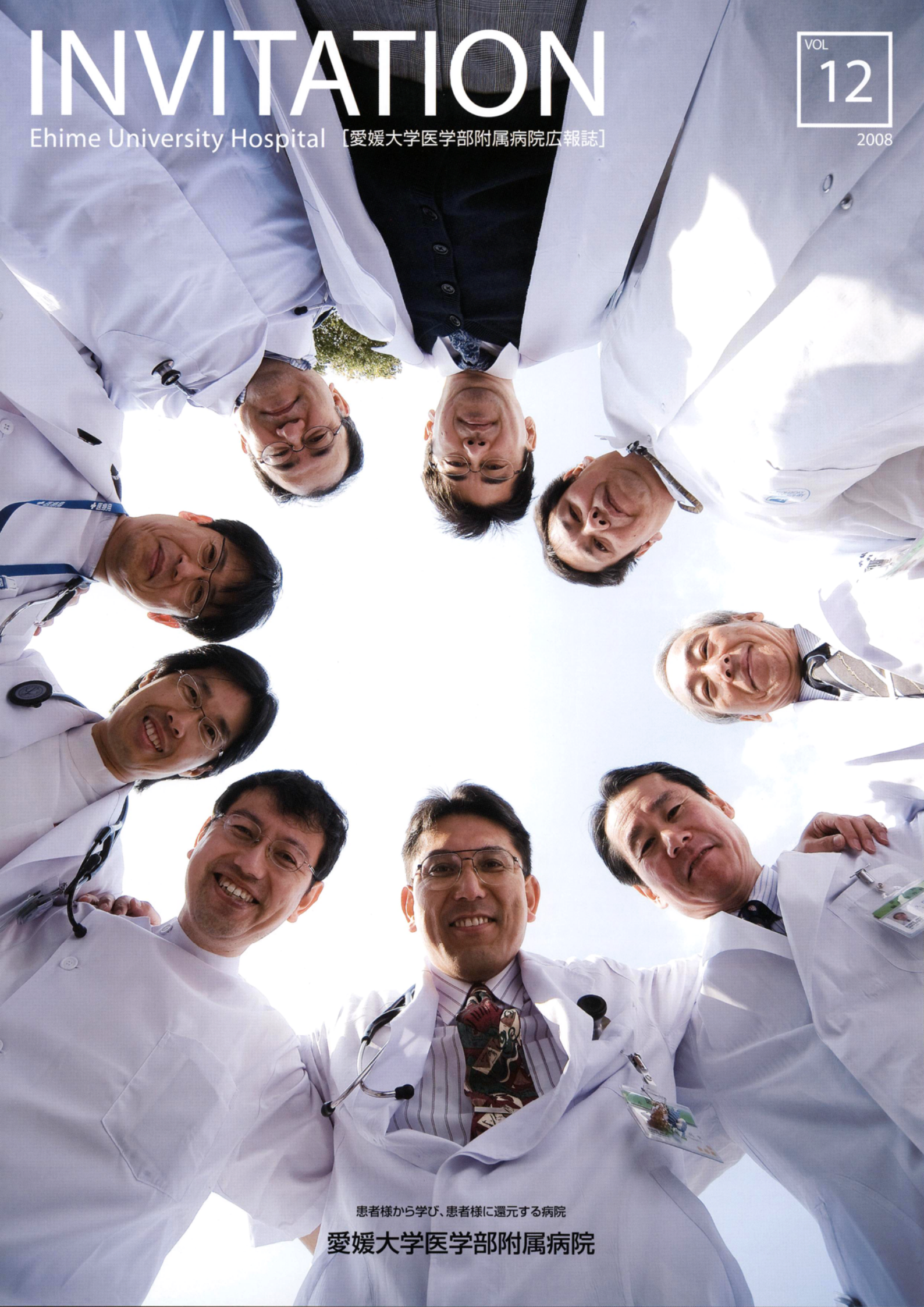
INVITATION

Ehime University Hospital [愛媛大学医学部附属病院広報誌]

VOL

12

2008



患者様から学び、患者様に還元する病院

愛媛大学医学部附属病院

急性疾患に、より迅速に対応するため、脳卒中・循環器病センターを拡充

脳卒中・循環器病センター センター長 河内寛治 医師

脳卒中・循環器病センター 構成図



小児循環器部門

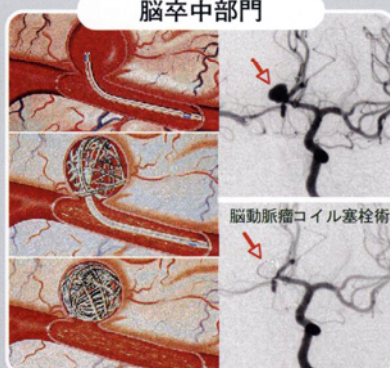


成人循環器部門

脳卒中・循環器病センター



外科循環器部門

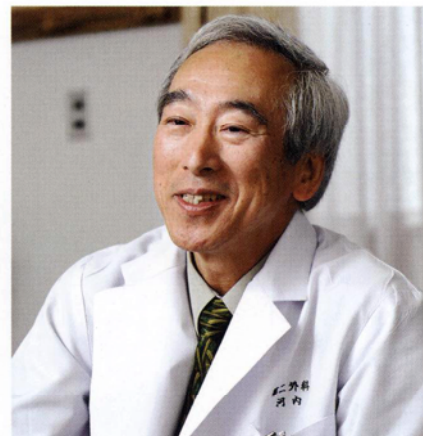


脳卒中部門

日本人の死因は1位ががん、2位が心疾患、3位が脳血管疾患です。そして、心疾患や脳血管疾患での死亡者は、年々増加傾向にあります。そこで当院では、心疾患や脳血管疾患などの循環器病と脳卒中は、関連の深い疾患であるとともに、特に急性期診断と治療が必要な疾患であるため、その両者を総合的に診断し、治療を行い得る施設として、「脳卒中・循環器病センター」を平成15年11月に開設しました。さらに本年度より、機能や人員を拡充し、より専門性を高めました。当センターは「小児循環器部門」「成人循環器部門」「外科循環器部門」「脳卒中部門」の4つの部門に別れます。これまでは各診療科が、それぞれに治療を行っていましたが、小児科と外科、内科と外科というように、

複数の診療科が横断的に治療できる組織になりました。

各部門には専門医を2名ずつ配属しています。それぞれの専門医は、全国的にもトップレベルの治療技術や知識、経験がある医師ばかりです。私自身、心臓外科を専門としており、心臓血管の3カ所同時手術を日本ではじめて行うなど、全国的に見ても高いレベルの経験や実績を積んできました。私だけでなく、優秀な専門医が担当する当センターは、愛媛にいながら、最先端かつ、トップレベルの治療が受けられる施設と自負しています。脳や心臓の手術は、術後のケアも重要です。そこで、ICU(集中治療室)は6床から8床に、NICU(新生児集中治療室)は6床から9床に増やし、手術数の増加に対応できる環境も整えました。



PROFILE

かわちかんじ◎大学院医学系研究科 医学専攻 臓器再生外科学分野教授。1970年大阪大学医学部医学科卒業。1996年より当院勤務。循環器専門医、心臓血管外科専門医として活躍。大学の入学後からはじめたノルディック複合スキーで、全関西2部の大会で銀メダル、西日本の医大大会で優勝した実績を持つスポーツマン。

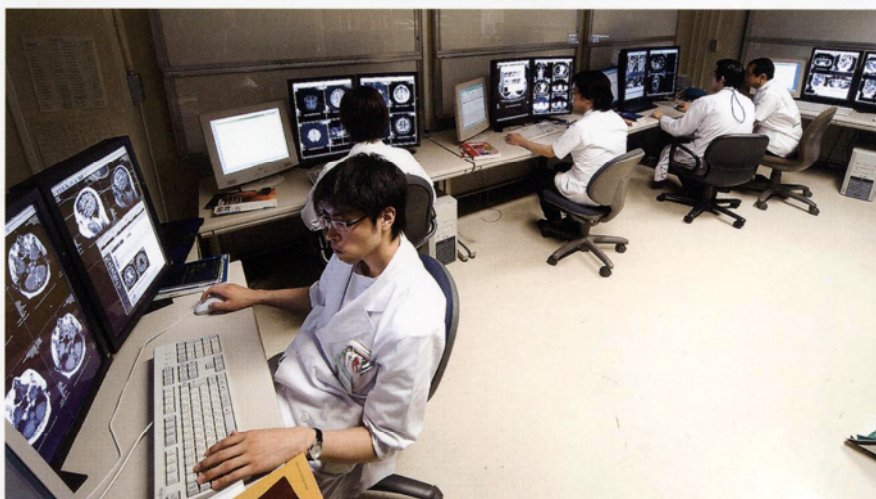
また、脳卒中急性期治療に対応し、十分な管理を行えるSCUも整備しました。これからは、当センターの本格的な稼働により、愛媛県内はもとより、四国や周辺地域の中心となる拠点病院として、脳卒中、循環器病に苦しむ多くの患者様の治療を行っていきたいと思っています。

当センターでは、24時間患者の受け入れが可能なホットラインを整備し、CT、MRI、脳血管撮影などの診断機器が24時間稼働体制となっています。さらには、脳卒中や循環器病を専門とする医師が、24時間体制で待機しており、必要かつ十分な診断と治療を行っています。

私が所属する第二外科のポリシーは「治療に最善を尽くし、医学の発展に寄与すること、惜しみない努力の医師たること」です。当センターでも、このポリシーを掲げていきたいと思っています。私のモットーも「努力」なんです。才能には個人差がありますが、努力は誰にも平等にできること。私達は、患者様の治療ならびに、医学の発展に、最大限の努力をしていきます。

早く正確な診断、治療のために、最先端の画像診断機器を導入

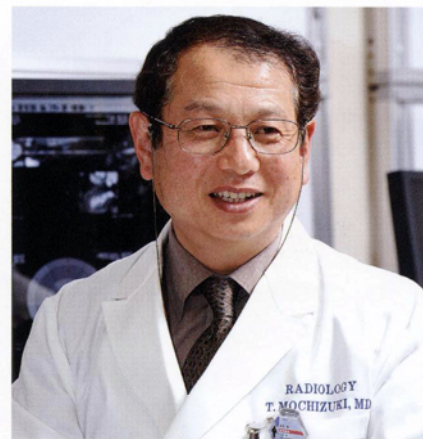
放射線部 部長 望月輝一 医師



当院の放射線部では、最新鋭の各種画像診断機器（CT装置、MRI装置、血管造影・CT装置、核医学診断装置）と、放射線治療機器をそろえて、高度先進医療の一翼を担っています。今年3月に、新たな画像診断機器を導入しました。MRI（磁気共鳴画像診断装置）の、1.5T（1.5テスラ※）MRIは、診断に役立つきれいな心臓のイメージングが可能です。さらに、高い分解能力、高画質の3T（3テスラ）MRIは、今までぼんやりとしか見えなかった細かな血管などを、はっきりと見るができます。これまで判断が難しかった診断も、スピーディーにできるようになりました。体内を細かに映し出す画像により、新しいイメージング法や解析法に関する研究も可能です。64列マルチスライスCT（多断面画像診

断装置）は、より短時間で、データの収集ができます。造影剤の静脈注射で心臓・冠動脈の鮮明な映像を得ることが可能になりました。多くの画像データを得ることで、その人の心臓などの立体画像を作成することもできます。新しい放射線照射装置（リニアック）は、コンピュータ制御により、がんに対して放射線の集中照射が可能です。正常組織が受けるダメージが少なくなり、「切らずに治せる、患者様にやさしい治療」がより高精度にできます。

このように、最新鋭の機器を導入することで、早く正確に診断・治療が行えます。特に診断では、病気そのものがよく見えるようになりました。そのため、病気を見逃さないことが求められます。放射線部では、15名の放射線専門医を擁して診断・治



PROFILE

もちづきてるひと◎大学院医学系研究科 医学専攻 生体画像応用医学分野教授。1980年愛媛大学医学部卒業。世界に先駆けて新しい解析方法を考案し、その評価を行うなど放射線科専門医として活躍。たまの休日となる日曜は、プールで泳いだり、土手や田んぼ道の散歩を楽しむ。

療を実践しています。放射線診断医は、「医者のための医者」とも言える立場。放射線診断医の視点から、画像の解析や診断をし、各担当医とカンファレンスを行います。その診断においては、目の前の画像を見るだけでなく、「画像の向こうに患者様とそのご家族の痛みを見る」。患者様にとって、より良い治療法をともに考えることで、治療に関わっています。

今年度から来年度にかけて、放射線部の全面改修を行う予定です。診断や治療に来ていただく患者様にとって、利用しやすくなるのはもちろん、働くスタッフにとっても、より働きやすい環境を整えたいと思っています。また、他の科の医師たちが気軽に立ち寄って話ができる、交流しやすい場所にもしたいですね。私はスタッフに、忙しくても楽しく仕事をしようと話します。画像診断機器の発展と放射線治療機器の発達で、放射線科の活躍の場は広がっていますが、どの病院でも放射線診断医、治療医とも不足して、大変忙しい状況になりました。そんな中でも仲間とともに、楽しく働いてほしいと思っています。

※テスラは磁気の強さを表す単位。1テスラ＝10000ガウス

愛媛大学医学部附属病院 センター・施設トピックス

お気軽にご相談ください

看護師のユニフォームをリニューアル



愛媛大学医学部附属病院は開院以来、看護師のユニフォームは「白」を通してきましたが、平成20年度より「癒しのピンク」が加わります。襟や袖口には白を残しながら、淡い色合いのピンクを基調としたデザインを選びました。患者さまには暖かい雰囲気を感じていただけるように、また、働く職員が優しい気持ち



を持つようにとの思いを込めています。

この4月には105人の新採用の看護師を迎え入れ、看護職員数も大幅に増えました。新採用者から、順次この新しいデザインのユニフォームに切り替えていきます。ピンクのワンピース、ピンクの上着に白のパンツロン、そしてデザインを変えた白のユニフォーム。新しいユニフォームを着こなし、新たな気持ちで看護を提供します。病院の中に癒しの風が吹き渡ることを願っています。

看護部管理室 TEL:089-960-5753 FAX:089-960-5649

第4回 ヘルスアカデミー

平成20年3月8日(土)、いよてつ高島屋において「血圧と健康」と題し、高血圧とその予防のための食生活をテーマに、第4回ヘルスアカデミーを開催しました。「血圧のことをもっと知ろう」と題した日本高血圧協会事務局長 日和田邦男先生の講演の後、「血圧と食習慣 ～あなたができる減塩方法を見つけませんか?～」と題して、本院栄養部栄養治療室の利光久美子氏が、高血圧予防食のお弁当を受講者に実際に食べていただきながら、減塩についてのアドバイスを交えて講演しました。さらに、病態情報内科学分野 檜垣実男教授が「高血圧退治に腕まくり」と題して講演を行いました。会場に訪れた約120人の受講者は、おいしいお弁当を食べながら、熱心に講演に耳を傾けていました。

◎問い合わせ先:
医療福祉支援センター
TEL:089-960-5322
FAX:089-960-5959

医療ボランティア研修を実施



平成20年2月3日(日)、東温市と共同で医療ボランティア研修(初級コース)を実施しました。幅広い年齢層の参加者を対象に、看護師が講師役となり、家庭ですぐに行える食事介助や清拭、車椅子やストレッチャーの操作方法等を指導しました。今後は、初級コース修了者を対象に、災害時に活かせる内容を盛り込んだ中級・上級コースを実施し、東温市とともに、災害時でも地域で活躍できる人材の育成に努めていきます。

医療サービス推進委員会
医療サービス室
TEL:089-960-5099 FAX:089-960-5134

「禁煙シール」でアピール



本院では、患者様の健康をサポートするという病院の社会的使命から、平成18年6月1日より敷地内全面禁煙を実施しています。この禁煙活動をさらに強化・継続していくため、そして、「率先して患者様の健康を守る」という意思表示をするために、全職員が各自の名札に「禁煙シール」を貼り、アピールを始めました。とても小さなシールですが、強い意志が込められたこのシール、目にした人が禁煙を意識するきっかけになれば幸いです。

医療サービス推進委員会 禁煙ワーキング
医療サービス室
TEL:089-960-5182 FAX:089-960-5134

編集後記

愛大病院情報誌INVITATIONの春季号をお届けします。この春、愛大病院は大グレードアップを開始しました。高度循環器医療に対応した新・脳卒中・循環器病センターは、院内の機構改編とはいえ循環器領域の外科、内科、小児科、脳外科を中心に世界に誇れるセンターを作り上げました。同時に放射線部の全面改装で画像診断装置のハイレベルアップも行われています。そもそも大学病院の強みは、専門性を持つ各科や部門の共同作業によって患者さんの高度全人的医療を行える点にあります。愛大病院はこれからも地域の皆様に愛され頼りにされるよう頑張ります。

◎愛媛大学医学部附属病院広報委員会
委員長 檜垣実男

◎表紙の人
脳卒中・循環器病センターのコアメンバー
—愛媛大学医学部附属病院前にて—



愛媛大学医学部附属病院

〒791-0295 愛媛県東温市志津川 Tel.089-964-5111 (代)
ホームページ <http://www.hsp.ehime-u.ac.jp/>